

第 80 回土曜公開講座

私たちの思考の癖を探る —判断と意思決定の心理学—

神戸学院大学心理学部 長谷 和久

社会心理学や認知心理学、そして行動経済学と呼ばれる研究領域において、人には2種類の特徴的な思考方法があることが指摘されています。1つは、システム1やヒューリスティクスと呼ばれる直感的な思考方法で、もう1つはシステム2やシステマティック処理と呼ばれる熟慮的な思考方法です。本講演では、ヒューリスティクスと呼ばれる直感的な思考方法に着目し、人は物事をどのように捉え、そして判断するのかについてお話しします。

私たちは多様な性格や特徴を有しており、1人として全く同じように考えて、同じように行動する人はいません。しかしながら、こうした多様性の中にも一定の法則、すなわち、誰もがもつ「思考の癖」が存在します。とくに物事を直感的に判断する際には「認知バイアス」もしくは「ヒューリスティック・バイアス」と呼ばれる、一定の法則にしたがった「予測可能な判断の歪み」が生じます。こうした判断の歪みは「知らず知らず」のうちに私たちの判断を左右し、日々の決定や行動（たとえば、何を買うかや、どんなニュースを重要視するかなど）に影響を及ぼします。今回の講演では、こうした「認知バイアス」の性質について、心理学的な研究成果に基づいてお話しします。本講演では具体的に下記のような内容に対して心理学の観点から説明をしていきます。

●対象の価値を判断する際の特徴

- なぜ当たらないとわかっていても宝くじを買ってしまうのか
- 多様な保険に加入するのはなぜか、など

●生活習慣病や自然災害といったリスクのある対象に対する危険性評価の特徴

また、本講演では心理学の研究場面で実際に使用される課題をもとにして、体験形式で私たちの「思考の癖」について説明いたします。加えて、講演の後半ではそうした思考の癖を逆手にとってモチベーションを高めたり、適切な行動を促す説得に活かすといった応用的研究についてもお話しする予定です。

